

N-E.X.T ハイスクール構想と本県の高校教育改革について



(壹岐議員)

教育は時代の要請にこたえる、時代を切り開いていく生徒を育成すると同時に多様な生徒一人一人の幸福を実現するという大きな使命を持っていると思っています。そのような観点からも大変重要な意味を持っている N-E.X.T.ハイスクール構想と本県の高校教育改革につきまして、教育長に伺います。

約14年後の2040年は、社会・技術・人口構造が大きく転換していると予測される節目の年です。日本の公的機関や国際的な未来予測でも、2040年は「社会の姿が質的に変わるタイミング」とされています。

高齢化率がピークに近づき、少子化も相まって、特に地方では人口減少が加速。医療や福祉人材の不足などによる社会全体の持続可能性が問われています。一方、技術革新によって単純作業や定型業務は人から AI やロボットに置き換わり、自動化の社会実装が成熟するといった産業や仕事の変革により、技術革新に対応し、新しい波を起こしていく人材の育成が急務です。

このことを見据えて、国は高校教育改革に関する基本方針いわゆるグランドデザインを発表し、本県ではこの方針に基づいて「福岡県高校教育改革実行計画」を新年度中に策定することとなりました。まずは、国が示した N-E.X.T.

ハイスクール構想に基づくパイロット校の取組を3年間行い、具体的な成果を各高校に横展開していく。そして2040年までに、専門高校の機能強化・高度化、普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化、地理的アクセスや多様な学びの確保といった3つの目標を達成することが求められています。

そこで、高校教育改革のカギを握るのが本県の「高校教育改革実行計画」です。今後具体的な計画案を考えていく上で、本県の特色や本県が抱える課題を的確に捉え、魅力ある、子どもたちが行きたいと思う県立高校にしていく実効性のあるものが求められます。

そこで質問ですが、新年度「福岡県高校教育改革実行計画」の策定を見据えて、教育長が改革に取り組まなければならないと捉えておられる課題とその対応方針をお尋ねします。

(寺崎教育長)

本県においては、少子化の進行や生産年齢人口の減少、AIやDXの進展による産業構造の転換への対応、産業を支える人材不足などの課題に直面しており、その状況は地域によって異なります。

県教育委員会としては、国の高校教育改革に関する基本方針を踏まえつつ、実行計画を策定するに当たっては、こうした課題に対応するため、地域による違いも踏まえつつ、専門高校における産業界と連携した実践的な学びの強化、普通科高校における文理融合型の学びの充実及びデジタル技術を活用した多様な学習ニーズへの対応等が必要であると考えています。

(壹岐議員)

国のグランドデザインには、「2040年の未来を担うみなさんへ」と題して次のようなメッセージが記されております。

「2040年、世界は、今からは想像もできないものになっているでしょう。

どのような世界であっても、社会の一員として持てる力を発揮し、2040年を動かしていく、その主役がみなさんです。心惹かれることに打ち込み、夢や希望を持って様々なことに挑戦し、自分自身の理想を追い求め、多くの仲間と協力し、日本や世界の未来をつくっていくことを願っています。社会へはばたくみなさんの背中を力強く押せるよう、今こそ、高校を進化させていきます」

転換点となる2040年を動かす主役として日本や世界にはばたく人材を育てるため高校を進化させていくとの力強い決意を感じます。

大切なことは、一人一人の可能性を見つけ、引き出していくという視点であり、画一的な生徒指導や、成績を上げることのみを主要な目的とした学習指導では、そこからこぼれ落ちた生徒の可能性を引き出すことはできません。

これまでの延長線上では、労働力不足や社会保障制度維持の困難さなど、2040年問題として挙げられている人口構造の変化に対応する人材育成に十分応えられず、公教育の存在意義が果たせなくなるのではないかと危惧しております。

だからこそ、これからの改革では、一人一人の潜在能力を最大限に生かす、いわば「生徒を主語とする教育」へと発想を転換し、多様な選択肢を柔軟に設計することが求められていると考えます。

そこで伺います。本県の高校教育改革に当たっては、時代の要請に応えた人材を育成していく教育とともに、この「生徒を主語とする教育」を改革の理念にすべきと考えます。

この点についてのご見解も含めて、今後の高校教育改革に対する教育長の決意をお聞かせください。

(寺崎教育長)

これからの不確実な時代を生きる子どもたちにとって、自ら問いを立てる力

や他者とともに価値を作り出す力など、AI に代替されない能力を身に付けていくことが必要です。

そのため、これまでも、生徒それぞれの個性やニーズ、興味・関心に応じた学びを生かした自己実現を支え、生徒の主体性を育み、可能性を広げ能力を伸ばす教育を進めてきましたが、今後の高校教育改革において、こうした視点がさらに重要になってくると考えています。

県教育委員会としては、こうした視点を踏まえつつ、改革を先導するパイロットケースにおける取組をはじめ、実行計画に定める高校教育改革を推進することで、県立高校が、引き続き本県並びに我が国の持続的な発展を支える人材育成の要として、地域から求められ、生徒・保護者に選ばれるよう、時代の変化に応じた魅力ある学校づくりに、しっかりと取り組んでまいります。

(壹岐議員)

どうか今後も、時代の要請に応え、時代を切り開いていく生徒を育成するとともに、同時に多様な生徒一人一人の幸福を実現する教育を推進していただくようお願いします。